

ホワイエ Foyer イエ

New Union of Architects & Engineers

Tokyo 625

2024. 5



2024年5月1日（毎月1日発行）定価200円 通巻625号第54巻第5号 発行/新建築家技術者集団東京支部幹事会
発行人 / 杉山昇 〒162-0811 東京都新宿区水道町2-8長島ビル2F tel.03-3260-9810 fax.9811 郵便振替東京3-19465
URL <http://www.ne.jp/asahi/shinken/tokyo/tokyo/tokyo> E-mail shinken-tokyo@group.email.ne.jp

ホワイエ 625 目次

- 03「秩父宮ラグビー場と神宮球場の現在地での再生提案」
発表会報告 石原重治+川田綾子
- 06 変わりゆくまち、これからのまち 石原重治
- 08 のごぎり屋根に魅せられて 吉田敬子
- 10「能登半島地震復興支援本部先発隊視察」のオンライン報告
千代崎一夫
- 11「三陸鉄道ぶらり一人旅」 柳澤泰博
- 14 アジアンニュース No.16 T N

今月の表紙 提供：川田・山下

2024.4.10「秩父宮ラグビー場と神宮球場の現在地での再生提案」発表会を豊島区大塚のラパスホールでおこないました。

会場参加は 50 人、オンライン参加は 141 人と関心の高いことがわかる取り組みになりました。ハイブリッドで無事に開催出来て良かったです。

Event Information ◎は新建主催行事 ◆は会員及び交流団体の行事

東京支部

- ◎05/07 火 18:30 第一回支部幹事会 @新建事務所
- ◎06/08 土 17:00 三浦史郎さんを偲ぶ会 @主婦会館プラザエフ すずらん
- ◎06/11 火 18:30 常任幹事会 @新建事務所

全国

- ◎建まちセミナー 8月下旬から9月予定 @那須まちづくり広場（栃木）
- ◎09/14 土 全国幹事会 @ZOOM
- ◎研究集会 11月ころ予定 @奈良

会員及び交流団体 ()は詳細・申込は担当の会員へ

- ◆05/09 木 18:30 第342回一木会 @としまち研+ZOOM（杉山）
テーマ：「能登半島地震の建築物被害等からの教訓」
ゲスト：片山 耕治（かたやま こうじ）氏（政策研究大学院大学 教授）
- ◆05/18 土 15:30 自然流の会 総会記念講演 @かながわ県民サポートセンター+ZOOM（柳澤）
「日本人の生活と神道」星川杉山神社 権禰宜 上野 カ氏
- ◆05/19 日 14:00 東京里山環境建築学校 @浮輪寮（町田市）（丸谷）
第五章「戸建住宅からシェアハウスまで、その暮らし」
- ◆05/20 月 10:00 設計協同フォーラム提携-東都生協「住まいるフェスタ in 新宿」@TOTO ショールーム(千代崎)
- ◆05/24 金 19:00 春夏秋冬のある暮らし「地球史6度目の大量絶滅」@市ヶ谷 BNP プラザ+ZOOM（金田）
- ◆07/27 土 10:00 設計協同フォーラム「マンションフェア」@板橋区立グリーンホール（千代崎）



各地でのイベントや行事情報、ホワイエの原稿も随時募集しています。

下記アドレスまで原稿をお寄せください！ foyer@shinken-tokyo.orgp.emai.ne.jp

秩父宮ラグビー場と神宮球場の現在地での再生提案 発表会の概要報告

石原重治・川田綾子

2024年4月10日(水) 18:30~20:30 東京労働会館7階ラパスホール(豊島区南大塚)にて開催しました、再生提案発表会の概要を報告します。

<参加人数>

会場参加 50名(スタッフ含む会員 11名、新建会員外 39名)、オンライン参加 141名(会員 21名、会員外 120名)、計 191名。大勢のご参加に感謝します。

<配布資料>

会員外の来場者への配布資料は、再生提案パンフレットと建築とまちづくり誌(神宮外苑に関する記事掲載の2021年12月号No.514/2022年5月号No.519)。

<運営メンバー>

主催は、本提案をとりまとめた新建東京支部 東京問題研究会 神宮外苑問題検討チームで、当日は以下メンバーで運営を担いました。

主催者あいさつ：事務局長 杉山昇/司会・進行、この間の取り組み報告：川田綾子/説明「秩父宮ラグビー場について」：柳澤泰博/説明「神宮球場について」：小林良雄/専門家から補足発言：岩見良太郎/会場からの発言・質問への回答：柳澤・小林/まとめと行動提起・閉会あいさつ：千代崎一夫/スライド映写・PC操作・ZOOM配信等：五十嵐一博、澤田大樹、山下千佳/受付等：丸谷博男、石原重治、千代崎一夫

<会場発言・質問等>

岩見良太郎氏：都市は一気に作り上げることはできない。時間をかけてベストな建築・計画とすべき。なぜ伊藤忠ビルが公園まちづくり区域に入っているのか？事業者側は「賑わいづくり」を掲げて再開発に傾注している。破壊的な都市計画(施策)「公園まちづくり制度」の問題がある。今回の新建の提案で、現地改修が可能であることが明確になった。

H氏(埼玉)：秩父宮ラグビー場には300回通った。現在JSC所有となっているが、元々は国有地。最初の案は4階建て人工芝だった。四面に屋根付きで現地再整備を要望する。

S氏(中野区)：野球場のリニューアルには、甲子園のように付加価値を付けた方がよい。事業者の「ラグビー場」計画は多目的ホールで、はなからラグビー場として作る気はないと感じる。事業者はグローバルな企業であり、単なる金のためのテナント事業とは思えない、何か別の思惑があるのではないかと感じる。

→新建コメント：事業者側は、再開発の意義・メリットのみを主張しており、価値観が違っているとつくづく思う。

K氏(ラグビー場・神宮球場残す会)：署名やチラシを作ってラグビー・野球ファンに訴えている。コンコースから歩車分離では、横浜球場、宮城球場で参考になる事例がある。限られた面積を活用するには運用でカバーできる提案も可能。老朽化の主張は世間への説得力があり、それに対して建物の使い勝手もあるので、耐震性だけでは説明できないのではないかと感じる。JSCのテニスコート廃止の提案には、反対の議論が出るのではないかと感じる。

→新建コメント：球場のリニューアルには、第二球場跡地も活用できるので、狭すぎることはない。全体計画、進め方は、これから議論していく余地はあると考えている。

S氏(都議)：議員連盟では、緑の保全を中心に議論してきた。新建の提案は、現在の外苑の現状を大きく変更しない、重要な提案だと思う。イコモス提案とのすり合わせ、前進的な方向に行けばよい。

→新建コメント：樹木・緑を守るため、現在地での改修を提案している。

T氏：神宮球場の車いす席対応、座席幅は広く出来るのか？改修見積はいくらか？

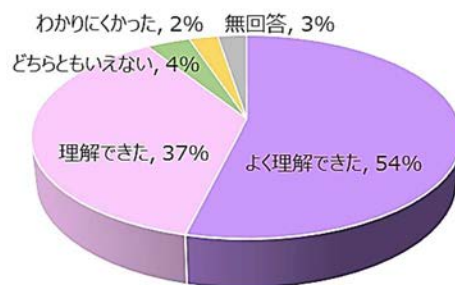
→新建コメント：車いす席の詳細な検討は行っていない。改修で対応できるが、費用の試算は行っておらず、今後の検討課題。



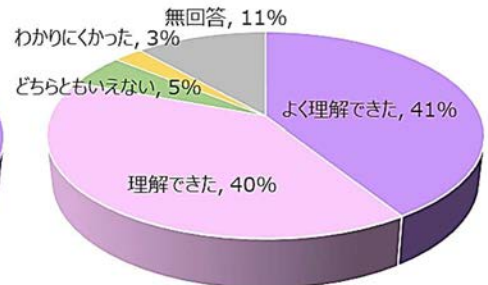
＜アンケート結果の概要＞

アンケートは会場18件、フォーム60件の回答をいただきました、重ねて感謝いたします。8割以上が再生提案への賛同的な意見でした。疑問や要望なども含めて、以下主なご意見を紹介します。

秩父宮ラグビー場についての提案



野球場についての提案



◇秩父宮ラグビー場に関して

- *ラグビー場を本来のラグビー場として残しておくことは大切だと分かりました。実際にラグビーに関わる方たちに関心を持ってもらう必要があると思います。
- *事業者の新設案では観客数が1万5千に減るとというのが初耳で意外でした。あれはラグビー場ではなく、多目的ホールでしょうね。既存建築の改修という提案に賛成です。
- *再開発案は、ラグビー場というより、多目的ホールを本音では考えていたのではないかと。540億円の建設費の内、鹿島グループは81億円の見積書提出！残り、459億円を運営費+補助金でまかなう。鹿島も三井不動産も不採算のラグビー場ではなく、実質、多目的ホールとして株主総会を乗り切る形にしたのではないかと。
- *老朽化という言葉は免罪符のようで誰もがうやむやに納得してしまう。詳しく調べるべきだと思った。誰のための施設なのか？お金を生み出すことを最優先にしている現行案の酷さを私のようなスポーツをよく知らない者でも今回の詳しい説明で理解できた。
- *リーグワンなどのプロ化が進むラグビー界において今のままの秩父宮ラグビー場で良いのかは疑問です。世界的には2~3万のスタジアムが多いとの説明もありましたが、15000でも満席にできるかわからないのに大きいまま維持する意味ってなんなのでしょうか。秩父宮ラグビー場について今のままでよいとラグビー関係者は本当に思ってるんですか？熊谷や花園のように新たなラグビー場が誕生するなか、秩父宮がそれでも尚完璧な施設のように思えません。

◇神宮球場に関して

- *わかりやすい図と共に説明くださりよりリアルな計画案が理解できました。190mビルがどれほどか比較図に驚き球場隣接していて、事業者の図にはない影の影響は昼間のプレーやイチョウ並木など樹木にも影響が大きいと思います。バリアフリー化エレベーター設置可能とのこと、安心しました。

- *エレベーター設置等リニューアルはコストがかかる。建築設備機器は最新鋭にするため、新築と変わらないですね。甲子園球場は、2007～2010の3シーズンで、延べ49,000㎡（3年で69,000㎡）、189億円（坪96万円）。
- *神宮球場はトラディショナルなデザインの球場として、引き継いでいきたい価値ある球場建築の一つです。外部からの内部へのアプローチ（動線）、球場内部のコンコース、アーケードなど、活かす方法を専門家にもっと提案していただきたいです。
- *メンテナンスで十分対応できると思う。高層ビルが覆い被さるような球場はありえない。ホテルで観戦する野球は、娯楽施設をセレブのものとするような格差社会を推進するようなものだ。
- *ラグビー場よりも構造が複雑なため、改修案についてのお話やスライドの内容は少しわかりにくいところもありましたが、再開発案の球場では観戦環境がいかに悪化するかはよくわかりました。
- *「付加価値の付与」が全てだと思います。座席広さも屋根の範囲ももっと野球が楽しくなるような工夫がないと、建替えを求める明治神宮の潜在的ニーズを押さえる事はできないように思います。
- *私はヤクルトの試合に行きますが座席は狭いですし、2階席に行くのに階段しかないのはきついです。新球場進めたい人はそういう点を理由にすると思うので、改修で居住性改善できることを強く伝える必要があると思います。

◇その他感想・ご意見・ご要望

- *市民の力でかえていくことの大切さが、話されたのは本当に共感しています。都政と事業者が結託しているとしか思えない今の「再開発」をとめるのは、そこに住み、働き、生活する人たちのあつまった力だとあらためて感じました。
- *神宮外苑の再開発は、大都市で進行中の怒涛のような大規模再開発の動きと連なっていると思う。外苑地区の特殊性もあって、メディアも一定取り上げざるを得なくなって、この問題に再考を促す可能性に期待している。その意味でも貴集団の具体的な提案はとても心強く、有り難い。今後も注目し、応援したい。大規模再開発の問題は、都市の破壊そのものだ。
- *建物や施設はつくっておしまいではない。人々が長い年月を経て都市景観を醸成していく。改めてそう強く思った。その歴史や記憶を一掃し真新しくすることだけが解決案ではないことを再生案は示してくれている。神宮外苑を守るため、そして今後もでてくるだろう東京の再開発事業にとっても意味のあるものなのでもっとひろめていきたい。
- *乱暴な再開発計画を認可した都整備局行政の責務を問い詰めたい思いが強いです。個人施行規定の本来の規定と異なった巨大な規模面積の再開発を認可した行政が、巨大面積であることに違和感を抱かなかったとは思えません。都行政の倫理観を疑っています。個人施行に今後、面積の制限値を厳しく規定することを提案いたします。
- *例えば、再開発事業はどれも何十年もの年月をかけて実現しています。良かれと思ったことが社会情勢や個人の事情によって変化していきます。反対の立場の我々もどうして開発しなければならなかったか、どう解決して行くべきかを考えてあげてほしいと思います。時間軸に沿って。専門性の強調や感情論で語ると疲弊します。許容していく反対運動とか、どう関わるべきか、長期的に考えたいと思います。
- *車椅子利用者の利用実態、使う人、サポートする人、働く人などの要求把握をし、より説得力のある提案にブラッシュアップしていく必要があると感じました。コストも含めて。
- *再開発のそもそもの理由は、「明治神宮の資金不足」と当初聞きました。再開発は高層ビル群の賃料で管理費・維持費を賄うのが目的の由です。我々の反対では、どのようにこの資金難をカバーするのかの提案が全くありません。この件での講演会があると安心出来ます。
- *今後、現在の計画を撤回させるまで幅広く、そして内容を深めて運動を広めていくこと。そのためには幅広く様々な団体や個人とつながり、運動の輪を広げるための活動を期待します。

これからの中野の住まい・まちづくり

東京支部（東京問題研究会）石原重治

3月号で「中野ブロードウェイ」誕生とこれまでの歩みを、4月号は中野駅周辺再開発の経緯と「中野プラザ」が壊されることを報告したが、今回は、中野のまち（都市化）の歴史を振り返り「これからのまち中野」の住まいについて意見を述べたい。

1 中野区の特性

中野区基本構想（令和3年3月23日改定）では、「若年層の転入者が多く、近年は外国人住民が急増しており、約120の国と地域の人など、多世代にわたり、様々な人が暮らし、訪れ、活躍する多様性にあふれたまち（ダイバーシティ）」。「伝統的な文化・芸術活動に加えて、お笑い、演劇、ライブ・コンサートなども活発で、1990年代からは、漫画やアニメなどのサブカルチャーのまちとしても国内外に独自の文化を発信していると中野区の特性を表現し、一方で「中野駅周辺のまちづくりの進展など今後10年間は、新たな中野の未来を創る大きなチャンスの時期」と述べている。

2 中野区の位置、まち（都市化）の歴史 都市計画マスタープラン2022・R4/6月などから

23区の西方にあり、東は新宿区、豊島区、西は杉並区、南は渋谷区、北は練馬区に接して、面積は、15.59km²、区部面積（627.53km²）の約2.48%、23区中では14番目の広さである。

江戸時代、徳川五代将軍綱吉のころ、犬の保護施設（御囲）が区役所付近に設置されたことで有名だが、基本的には武蔵野の農村地域であった。明治になると、青梅街道の整備や甲武鉄道（現JR中央線）開通により近代化がすすみ、大正初期には製造業、商業が盛んになり、郊外住宅地としても街並みが形成されてきた。

1923（大正12）年の関東大震災後は人口急増し、昭和初期には農村地域から、サラリーマンと労働者のまちへと変貌していった。戦後、1961（昭和36）年に営団地下鉄丸ノ内線、1964（昭和39）年には東京オリンピック開催にあわせるべく環状7号線が開通、1966（昭和41）年、営団地下鉄東西線が開通など、都心への交通利便性がよくなり、間借り・下宿屋、寄宿舎や木造賃貸アパートなどの家賃も安かったことから、進学、就職などで多くの若者が転入してきた。しかし、結婚や出産などで世帯構成が変わると、区外転出するが多かった。1965（昭和40）年ころになると公共住宅や民間マンションの建設も増えてきて、1973（昭和48）年、中野サンプラザ（正式名称：全国勤労者青少年会館）が竣工し、アクセスの良さ、大ホールの良い音響が評価され、1966（昭和41）年に完成していた中野ブロードウェイとともに、多くの若者文化を呼び込む求心力となった。

1997（平成9）年、都営大江戸線（練馬駅～新宿駅）が開通し、中野坂上駅周辺（青梅街道と山手通りの交差点）の市街地再開発事業により、西新宿に近接する高層ビル群が登場した。

2012（平成24）年、中野駅北側の警察大学校等跡地に業務ビル、大学施設、公園などが整備され、中野四季の都市（まち）として、中野駅周辺再開発の先事例となっている。

3 住宅問題の特徴と課題 第4次中野区住宅マスタープラン2022（令和4）年3月から

区内全域にわたり戸建住宅とアパート、マンションが混在して広がり、密集した市街地が形成されている。中野駅周辺は拠点として商業、業務、文化交流等の多様な機能集積が進んでおり、西武新宿線沿線では鉄道の連続立体交差化に合わせたまちづくりを進め、昼間人口は増加傾向にある。

また、人口、世帯動向や主な住宅問題を、具体的な事項でみると以下のとおりである。

- 1) 人口は、2021（令和3）年で、334,632人、世帯数は207,425世帯、一世帯あたり1.6人で、年代別では20歳代～30歳代が113,173人で総人口の33.8%、65歳以上人口は20.3%である。人口密度は東京23区において豊島区に次ぐ2位、213人/haである（※23区平均152人/ha）。
- 2) 6歳未満がいる世帯は、2010（平成22）年まで減少し、2015（平成27）年は、回復傾向にある。
- 3) 20歳代及び30歳代の転入出が多く、20歳代は転入超過となるが、10歳未満の世代がいる世帯の転出が高くなるのは、以前と変わらない。
- 4) 住宅数は増加を続け、2018（平成30）年では、229,060戸である。居住世帯なしが27,900戸。居住世帯のある住宅のうち、77.5%は（木造、非木造の）共同住宅である。
- 5) 誘導居住面積水準を満たしている世帯は32.9%、最低居住面積水準を満たしていない世帯が18.5%、東京23区平均より高くなっている。

- 6) 非木造住宅の耐震化率は、90%を超えているが、木造住宅では85.5%である。
- 7) 幅員4m未満の道路（建築基準法第42条2項道路等）にしか接していない住宅は37.3%、東京23区で最も高くなっている。
- 8) 木造住宅密集地域の不燃化率（全建物に対する耐火造及び準耐火造建築物の占める割合）は、2011（平成23）年～2016（平成28）年の6年間で51.1%→56.5%と、5.4ポイント改善したものの、東京23区の中でも下位となっている。

4 住宅政策の現状と課題 代表的な事例で、取り組みと方向性を紹介し、課題と修正事項を提案する。

- 1) 住環境の整備：良質な民間賃貸住宅の供給の促進や多文化共生に向けた環境整備のため取り組むと述べるが、依然ワンルーム住宅の供給が多く、子育て世帯の定着に結びつく結果には至っていない。
- 2) 居住の安定確保：住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅への入居支援への取組を継続すると述べているが、家賃補助などの新たなセーフティネット構築も検討する必要がある。
- 3) 住宅の質・住環境の向上：既存住宅ストックの質の向上への取組を進めると述べているように、居住面積や機能性など住宅の質では改善すべき課題が多い。住宅取得価格が上昇して、一般的な勤労者には取得が困難である。価格統制や適切な開発規制を検討すべきである。また、戸建住宅では狭小敷地・狭小住宅での再生産が目立つので、防災上の観点からも適切な規制が必要である。
- 4) 安全、安心のまちづくり：住宅の耐震化を促進、木造住宅密集地域の改善、地域等と連携した防災・防犯対策の推進を図ると述べるが、予算が足りないのか実績は十分でない。
- 5) 空き家の適正管理及び不動産市場での利活用を促進するというが、これだけが解決策だろうか？
- 6) マンションの適正管理：適正管理のためには実態把握と所有者・管理者へ一定の支援が必要である。また、マンション再生では「既存不適格」の建物も多く、抜本的な対策の検討も必要である。

5 まとめ

- 1) 開発を促進している区域と木造住宅密集地域など防火・耐震改修を促進をすべき区域がある
- 2) 幅員4m未満の道路にしか接道していない住宅の防災・安全対策と道路整備は所有者と事業者任せでなく、新たな支援が必要である。狭小敷地・狭小住宅の再生産への適切な規制が必要である。
- 3) 住宅問題を改善するには、駅周辺などの経済整合性優先の都市再開発に予算と人員を集中する近年の区政から脱却し、上記2)のように、多くの区民の生活と安全に直結する分野に資源を注ぐべきである。また、その時期を迎えている。

④ 中野サンプラザのランドマーク性・形態を継承するデザイン

基壇部は周辺の街並みに合わせたスケールに分節し調和を図り、高層部は中野のシンボルとなっている現中野サンプラザの三角形を活かしたトップデザインとしながら、新たなシンボルトワーとなることを目指します。



建物は仮称です（今後変更になる可能性があります）

～ 2021年5月12日 報道資料から複写

（事業者）野村不動産株式会社、東急不動産株式会社、住友商事株式会社、ヒューリック株式会社、東日本旅客鉄道株式会社

（事業内容）ホール、オフィス、住宅、商業、ホテルを事業用途とする土地区画整理事業（約52,000㎡）と第一種市街地再開発事業（個人施行）の一体的施行を予定

鋸屋根に魅せられて

滋賀県高島市藁園区 写真家 吉田敬子

日本における帆布の産地といえば、主に岡山県倉敷市、広島県尾道市、滋賀県高島市が日本の三大帆布産地です。その一つ滋賀県高島市を訪ねて来ました。東京から新大阪方面へ行く東海道新幹線に乗り、米原駅近くからの風景は「海だ！と勘違いする」日本一大きい湖、琵琶湖があります。その湖がある高島市は、滋賀県の北西部に位置し、古くから織物産地として知られ、高島市の繊維業は明治維新後の家内工業にさかのぼります。農家の農閑期の副業として機織りを始めたのが起源です。その後、撚糸を使った織物、縮（クレープ）が高島の特産として定着し、クレープを中心とする薄地織物、産業資材を中心とする厚地織物とねんし撚糸です。質のいい地下水に恵まれた高島市は繊維業に適していました。雨量が多く、年間を通して湿度が高い地域性が糸にとっては最適な環境であり、繊維を強くしてくれます。その環境で生まれたのが「高島ちぢみ」です。「高島ちぢみ」は、緯糸に、強く撚りをかけた糸を用いて織り上げた後、特殊な晒工程によって追撚された布面にシボ（凹凸）を出すのが特徴で、高温多湿な日本の春夏衣料素材として重宝されています。

高島市新旭町藁園区の撚糸工場：2連鋸屋根工場と1連鋸屋根工場



京都駅より湖西線で新旭駅下車です。琵琶湖の鋸屋根を想像しながら、西口駅前にある高島地域地場産業振興センターを訪ねました。高島ちぢみや撚糸工場の鋸屋根などを、話すと「だいぶ取り壊されましたが、新旭町藁園区の方ならあるはずです。」と地場産MAPを頂き、レンタサイクルを借りて出発です。東口より琵琶湖方面を進むと2連鋸屋根が出迎えてくれました。訪ねると撚糸工場で、かつて周辺には帆布工場もあったと話してくれました。自転車は私の良き足で、しばらく進むと川沿いに1連の鋸屋根です。訪ねると数年前は撚糸工場で今は物置に使用している。周辺に工場は沢山あったよ。昭和53年ころ高島地域には織物業479企業、撚糸業499企業と滋賀県を発祥とする大手繊維企業が多かったという歴史があります。地域の綺麗な湧き水を「生水」と呼び、集落の中を巡る水路や水を生活用水に利用することを「川端」と呼ぶそうです。どこか懐かしい昭和が漂っていました。琵琶湖周辺の豊かな自然や水辺の暮らしは心が落ち着きます。鋸屋根も穏やかでした。工場の特徴は木造が多く瓦屋根切妻、横向きの化粧板でした。空き工場が多く「袋町」と呼ばれるほど細い迷路のように入り込んでいるのが特徴昭和時代は女工さんで賑やかでした。

新旭町藁園区の町並み・川端と鋸屋根工場 かばた



「能登半島地震復興支援本部 先発隊視察」のオンライン報告会と全国・東京災対連の総会

千代崎一夫

新建災害復興支援会議の中に、能登半島地震の支援に機敏に対応できることを目的として、「能登半島地震復興支援本部」を設置し、本部長は石川県に本籍のある丸谷博男さんがなりました。

先発隊として3月6日（水）～7日（木）で、石川支部の杉山真さんに自動車以案内をしてもらい、丸谷さん（東京支部）、新井隆夫さん（群馬支部）、山下千佳さん（東京支部）、千代崎一夫（東京支部）で視察をしてきました。

その報告会を3月25日（月）19時～20時30分、オンラインのみで開きました。報告は丸谷さんが、司会は山下さんがおこないました。

被災地の映像を中心に、液状化・側方流動、倒壊家屋、ビルやホテルの被害、西海岸での隆起、輪島市の朝市通り商店街の火事、被害がなかった商店なども報告されました。

石川県立輪島漆芸技術研修所所長の小森邦博さん（人間国宝）ともお会いしたことにも触れ、併せて大きな視点や違う観点からの見方、資料などが豊富に出されました。

参加者申込者は95人で、会員が38人、会員でない方は57人でした。実際に参加された方は81人まで把握でき、関心が多いことを示しています。

新建災害復興支援会議に会員のみなさんから寄せられた支援金のうち、10万円を石川支部に渡し、復旧復興のための活動費として役立て欲しいと伝えました。支援金は48万9000円（3/18現在）となっています。東日本大震災や熊本地震の時のように現地周辺の支部を中心にブロック会議を開き、全国からも参加して支援のあり方や経験を自分建ちの地域でどう活かすかを交流したいと思います。

新建は「災害被災者支援と災害対策改善を求める全国連絡会」に組織加盟をしています。阪神淡路大震災時に作られた支援組織を改組して、被災支援と防災減災を系統的に考えようと運動をしています。この組織を結成するときから関わり、今でも世話人団体の組織になっています。地域レベルの運動としては東京災対連があります。私は代表世話人で、山下さんは世話人です。3月25日には東京災対連の総会があり、3月27日には全国災対連の第25回総会が開かれました。

引き続き、被災地の支援と防災活動に関わっていきましょう。

災対連の申し合わせの目的

- ①災害被災者の生活再建と住民本位の復興を目指す。
- ②被災者生活支援法の改善
- ③災害・防災問題に関する運動・情報の交流を活発にする。
- ④関連する諸団体との連携と協同に努力する。



3/27 全国災対連の総会



3/7 輪島診療所の炊き出し



3/7 金沢駅で一番右は石川支部の杉山さん

三陸鉄道ぶらり一人旅（1）

柳澤泰博

三陸鉄道ぶらり旅を思い立ち、朝上野発 8 時 46 分の新幹線で仙台へ。10 時 15 分仙台着。

仙台からは JR 東日本在来ローカル線を乗り継いで、三陸鉄道の始発大船渡盛駅へ。そこから三陸鉄道で終着駅久慈まで。ちょっと足を延ばして八戸を目指す二泊三日の旅です。

一日目は仙台から気仙沼を目指します。ここはまだ JR 線区で、仙台から仙石線で石巻。JR 石巻線で乗り継ぎ中継駅前谷地へ。そこから JR 気仙沼線で気仙沼を目指します。しかし今は気仙沼線は電車区間ではなく BRT つまりバス区間です。

まず仙台駅でチケットを買うのに迷う。券売機で仙台から気仙沼までのチケットを買おうとすると新幹線で一ノ関まで行って JR 大船渡線で行くセレクトしかでてこない。そこでみどりの窓口に行って、仙台～石巻～前谷地～気仙沼までのルートを作ってもらう。さていよいよ仙石線で仙台から石巻までのローカル線の旅！しかしまた早速迷った。仙石線のホームはどこだ？ローカル線のプラットフォームをイメージしていたが、そんなホームが見当たらない。なんと仙石線は隣のあおば通り駅始発の地下鉄だった！学生や通勤客にまじって乗車してしばらくすると地上に出て住宅地を走るいわゆる郊外電車。



そのうちに人家もまばらになり、多賀城を越えて塩竈に近づくと海が見えてきた。といってもクレーンが並んだ港湾といった感じ。

郊外田園地帯をしばらくはしるとやっと松島っぽく？なってきた。風光明媚な松島を期待したが電車は海岸線からはちょっと離れていて垣間見られる程度。電車が海に近づくと堤防越しの松島湾が見えてきた。降りて散策したいところだが今回は寄り道はナシ。



松島海岸駅



松島湾



堤防越しの松島湾

電車はのどかな田園地帯を進むと「鹿妻」の駅に到着。駅前に実物大のジェット戦闘機が飛んでいる。のどかな周りとは釣り合いでちょっとギョツとする。そうか！さすがブルーインパルスの本拠地。この先に「松島基地」があるはずだけれども今は飛んでないし見えない。残念！



電車は石巻駅に12時15分着。次の乗り継ぎまで町を散策。まずは駅前で地元の昼メシ！と思ったら、商店街もなく閑散としている。駅前には市役所が入った大きなイオン石巻店があるが食べる場所がない・・・イオンでお弁当を買ってイトインはあるという。さすがに寂しい。そんな中でどうにか蕎麦屋らしき店を見つけてやっと昼食。さて石巻を散策といっても目的がない。とりあえず石巻といえば石ノ森章太郎萬画館を目指す。この建物は旧北上川の中州にあり、震災で津波が押し寄せたが奇跡的に被害を免れた建物です。この施設がある石巻は石ノ森章太郎のふるさと？ちょっと似てるけれど違いました。石ノ森章太郎ふるさと記念館は同じ宮城県登米にあるそうです。今回は時間がないので萬画館内には入らず、対岸にある「かわまちテラス」で一休み。これは震災復興事業で令和4年度「かわまち大賞」を受賞した施設。ここにはレストランがあった。しかしいまさら遅い！

石巻駅への帰り道にはサイボーグ009の戦士たちが街中のいたるところに立っていました。そして街中でこんなレトロな建物も見つけました。



石ノ森章太郎萬画館



かわまちテラス



サイボーグ009の戦士たち



街角にレトロな建物が

石巻線は女川から小牛田までの線で、今回は女川から来た列車で石巻から前谷地を目指します。やっと？ローカル線らしく二両連結のディーゼルカーでした。まあローカルなこと。乗客は私と二三人。のどかな田園地帯を走ります。



ディーゼル石巻線



列車はのんびりと田園地帯を進



前谷地駅

20分足らずで気仙沼線の乗り継ぎ駅 前谷地に午後2時過ぎ到着。

ここからは今はBRTバス路線で気仙沼を目指します。道路は一般道を走り、たまに元の軌道敷を舗装した専用道路を走ります。前谷地から乗り込んだのは私と若い女の子。えらく咳込んでいる。途中の病院に行くのか？彼女が前の方に座ったので、一番後ろの席で息をひそめる。

バスは新しい南三陸町役場や南三陸病院を通り陸前港へ。新しい建物と防波堤が続くが降りられないのでバス車窓から遠く眺め見るだけでした。



午後5時 気仙沼駅に到着。

今夜は駅前のビジネスホテルで一泊。さて晩飯は地元の小料理屋で一杯！と思いフロントで近くのおすすめの料理屋を聞きこみ、早速暮れなずむ気仙沼の街に出る。歩くこと10分それらしき料理屋が！電気がついていない！休み！もう一軒も休み！お茶屋と布団屋の店は開いていた。食べ物やを探して徘徊するが見つからずホテルに戻る。しかしこれはほんの序章にしか過ぎなかった。フロントに「休みだった！」と告げる。では駅前のとんかつやは開いているからと電話してくれた。しかし客がいっぱいで本日は終了！「前の駅のコンビニが6時半までやっているはずですよ。明かりがついているから何かあると思いますよ」ということで早速駅のコンビニへ！しかし電気はついていないがカーテンが引かれ営業終了！の札が下がっている。再びフロントに。「コンビニに電話してみます。ハイ？今日は6時に早仕舞いした？！」なんのこっちゃ！「このホテルの6階に簡単な弁当の自販機があります。」こうなりや食えればなんでもいい。6階の自販機へ。しかし1000円札が入らない！再びフロントへ。結局自販機が壊れていることが判明。さてどうする。さすがにフロントマンが申し訳なさそうに近くの（と言っても車で5分）コンビニまで車で送ってくれることになった。誰のせいでもない。間が悪いときはこんなものである。そんなこんなで第一日目の晩飯はホテルの一室でコンビニのかつ丼と缶ビールであった。 トホッ。（続く）

越南・チャンパ遺跡(1)

南中部沿岸地方のダナン市やクアンナム省のチャンパ遺跡の話題が出て VIETJO ニュースで報道されており、その足跡をたどって見ることにする。

筆者は、一度だけチャンパ遺跡を訪れたことがある。レンガを積み上げた遺跡群に圧倒されました。今では、観光名所になり、歌や踊りもあるようです。

—*

アジアニュースNo.16
(ベトナム中心) TN

社会 クアンナム省: 昭和女子大チームがチャンパ王国の古城跡を発見 2013/03/13 JST 配信



南部社会科学研究所と日本の昭和女子大学の考古学研究チームはこのほど、南中部クアンナム省ズイスエン郡ズイチュン村で行った発掘調査で、チャンパ王国の王都シンハプラに建設された古城の跡を発見した。9日付ダイダアンケート紙が報じた。

発掘調査は、同村に住むグエン・クアン・ティエンさんの自宅の敷地約300平方メートルを対象に行われ、1.5~1.6メートルの間隔を開けて築かれた壁が発見された。壁はレンガ製で、高度な技術で堅固に作られたものだという。また、壊れた状態だが「Kendi」と呼ばれる水注も見つかった。



研究チームの考古学者らは、チャンパ王国の王都シンハプラを防衛するために4~5世紀に建設された城壁の跡だとみている。この古城跡は、ズイスエン郡でこれまでに発掘された遺跡の中で最も古いものとみている。

—*

特集 フランス極東学院の資料に見る20世紀初頭のベトナム 2014/12/21 06:56 JST 配信

(上写真)クアンナム省ミーソン聖域の調査の様子
(下写真)タインホア省の世界遺産、胡(ホー)朝城の発掘調査の様子

フランス極東学院(EFEO)が保管する、20世紀初頭におけるフランス統治下のベトナムを写した写真55枚や多数の考古学遺物が、ハノイ市にあるベトナム国家歴史博物館(1 Trang Tien St./25 Tong Dan St., Hoan Kiem Dist., Ha Noi)で展示されている。

同博物館とEFEOによる企画展「ベトナムの視点—フランス極東学院の資料に見る20世紀初頭のベトナム」の開幕式が12月3日、同博物館とフランス文化センターで行われた。

ベトナムでは長らく続いた戦争により、数え切れないほど多くの考古学的遺跡や遺構、遺物が失われてきた。特にチャンパ(2世紀から15世紀後半ごろまでベトナム中南部の沿岸地方に存在した



ベトナムの初期国家)やオケオ(2世紀から7世紀ごろまでメコンデルタ地方で栄えた扶南の都)については、主にレンガ造りの建造物が数多く残されていたが、爆撃などで大きく破壊され、資料としての写真でしか当時の姿を見ることができない。

ベトナムの重要な遺跡の幾つかは、20世紀初頭にEFEOの研究者によって発見された。1898年には南中部沿岸地方クアンナム省にある世界遺産のミーソン聖域はフランス人によって発見され、その後EFEOの研究者らが建造物や彫刻、碑文などの調査・研究を行った。現在でもミーソン聖域の建造物の分類に用いられている「A10」や「B5」といった遺構ナンバーも、EFEOの研究者らの功績によるもの。

(上写真)クアンナム省ドンズオン遺跡(寺院遺跡)の彫刻

(下写真)ハノイ市の様子

EFEOは調査・研究だけでなく、ベトナムにおける博物館の基礎も築いた。1926年、歴史的な遺物の保管を目的として、後のベトナム歴史博物館、そして現在の国家歴史博物館の前身であるルイ・フィノ博物館をハノイ市に建設(ルイ・フィノはEFEOの多額の資金援助をした人物)。更に1915年には、EFEOの研究



者アンリ・パルマンティエが南中部沿岸地方ダナン市に現在のチャム彫刻博物館である博物館を建設し、1936年にアンリ・パルマンティエ博物館と名付けられた。

現在 EFEO が所蔵する資料には、カンボジア関連の写真 3 万枚、ベトナム 7000 枚、中国 3000 枚、ラオス 3000 枚などが含まれる。今回の企画展で展示されている写真 55 枚は莫大な資料の中から厳選されたもので、オリジナルの写真は 19 世紀後半に発明された「臭化銀(シルバー・プロマイド)ゼラチン乾板」(ガラス板に臭化銀粒子を感光剤として散乱させたゼラチン乳剤を塗布した乾板)を用いて撮影された大判や中判のネガフィルムとなっている。いずれもデジタル化され、復元処理が行われた。

展示されている写真は、◇考古学、◇各博物館の建設、◇20 世紀初頭のベトナムの暮らし、◇南郊壇の儀式の 4 つのテーマに分かれている。

「考古学」では、EFEO の研究者によるベトナム各地の遺跡の復元など、当時の考古学的調査の過程を紹介している。注目すべきはチャンパとオケオの文化に関わる新発見の数々で、発掘された建造物や遺物などの写真が残されている。

「各博物館の建設」では、EFEO が建設した各博物館の写真を紹介。EFEO はベトナム、ラオス、カンボジアを合わせた領域のフランス領インドシナ(1887～1954 年)に 8 つの博物館を建設した。このうち国家歴史博物館及びチャム彫刻博物館を含む 5 つが現在のベトナムに建てられた。

同企画展の中で最も多くの写真を占めるテーマが「20 世紀初頭のベトナムの暮らし」で、農業など様々な儀式や祭、村の鎮守の神や祖先崇拝に関わる儀式、葬儀といった当時の人々の民俗文化、また生活の様子やかつてのハノイ市の様子などを紹介している。

「南郊壇の儀式」では、阮(グエン)朝(1802～1945 年)の第 13 代且つ最後の皇帝バオダイの時代に当たる 1939 年に行われた南郊壇の儀式の写真を紹介している。

これらの資料のほか、同企画展では国家歴史博物館が所蔵する約 50 点の考古学関連遺物も展示されている。これらはいずれも EFEO の調査・研究に用いられていたもので、展示キャプションや遺物分類登録書、考古学的分析サンプル、遺物ケース、発掘調査日誌、カメラ、写真乾板、ネガなどが含まれる。

また、ベトナムの考古学を語る上で重要なホアビン文化(西北部。中石器または新石器時代初期)、バクソン文化(東北部。中石器または新石器時代初期)、ドンソン文化(北中部。金属器時代初期)、サーフィン文化(中南部。鉄器時代)、オケオ、チャンパといった全国各地の各時代における遺跡から出土した遺物も多数展示されている。これらの各文化は現存も世界各国の研究者により調査・研究が進められているが、EFEO の研究者たちが研究の基礎を築き、大きく貢献してきたことで知られている。

—*

社会 遺跡保存か開発か？ 高速道路用地に眠るチャンパ遺跡の行く末 2015/04/24 18:48 JST 配信

南中部沿岸地方ダナン市と同クアンガイ省を結ぶ高速道路の建設工事中、10～11 世紀ごろのチャンパ王国時代の寺院跡と見られる遺跡が発見された。歴史的に大きな意義を持つ遺跡の保存か、経済発展と交通利便性向上のための高速道路開発か、関係者らは選択を迫られている。

ダナン～クアンガイ間高速道路建設案件は、国際協力機構(JICA)及び世界銀行(WB)の支援を受けたもので、2014 年初めに第 1 期が着工。全長 140km(高速道路 131.5km、連結道路 8.02km)、幅 26m、4 車線の高速道路を建設している。

2014 年末、同高速道路の一区画に当たる南中部沿岸地方クアンナム省ズイスエン郡ズイチン村チエムソン村落で、工事中に地面を掘削していたところ、地表面から約 30cm の深さに埋まったレンガ列が発見された。これを受けて工事は一時中止となり、ベトナム考古学院による発掘調査が開始された。

ダナン市とクアンナム省の地域はチャンパ王国の初期の中心地で、聖地ミーソン・港市ホイアン・王都チャーキエウの 3 か所を中心として栄えたとされている。特にチエムソン村は王都チャーキエウにほど近く、同村周辺にチャンパ遺跡が存在していることは専門家の間でも認知されていたものの、調査は行われていなかった。

考古学院は今回の調査で面積 2000m² を発掘。当時の瓦やレンガ、土器など多数の遺物を見つけたが、未だ遺跡の全体像をつかめておらず、発掘面積を更に 1800m² 拡張したい考えだ。ただし調査により工事の進捗が遅れが出ており、調査の続行について工事の請負業者が同意していないことから、現在は発掘調査自体も中断されている。

当初計画では、4 月 30 日までに発掘調査を終えて土地を引き渡すことになっていたが、今後の計画については決定していない。このまま行くと、この遺跡は高速道路の下に埋められることになる可能性が高い。国内各地で開発が進む中、これまで大きな問題として取り上げられてこなかった遺跡保存と開発の共存について考えなければならない時期が来たようだ。

—*



住む人・使う人の立場で、
住まいづくり、まちづくりを
すすめています。



共同建替え「アリシア鳩ヶ谷」

〒124-0001
東京都葛飾区小菅4-22-15
TEL : 03-3601-6841
FAX : 03-3601-6944
E-mail : zo-3@jade.dti.ne.jp
<http://www.zo-3.info>

株式会社 **象地域設計**

住み続けられる



株式会社
まちづくり研究所

〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿 1-13-6 第二伊藤ビル 503
TEL : 03-5423-3470 FAX : 03-5423-3479

新建築家技術者集団 憲章

建築とまちづくりにたずさわる私たちは、国土を荒廃から守り、かつ環境破壊を許さず、人びとのねがう豊かな生活環境と高い文化を創造する目的をもつ。

私たちはこのことを認識し、行動するための目標をかかげ、ここに憲章を定める。

- 1 建築とまちづくりを、社会とのつながりの中でとらえよう。
- 2 地域に根ざした建築とまちづくりを、住む人使う人と協同してすすめよう。
- 3 建築とまちづくりの優れた伝統を継承し、理論や技術の発展と創造につとめよう。
- 4 人びとに支持される建築とまちづくりの活動をすすめ、専門性を確立しよう。
- 5 建築とまちづくりに関連する国内外の広い分野の人びととの交流をはかり、連帯を強めよう。
- 6 建築とまちづくり、生活と文化、自由のために平和を守ろう。

WHY?

え？

広告主募集中です!

新協建設工業株式会社

平和であればこそ建築はよろこび

本社 台東区台東2-25-10
東東京支店 江戸川区篠崎町3-1-3
台東支店 (台東) 台東区台東2-25-10
西東京支店 (多摩) 日野市神明4-22-13
大阪支店 堺市寺地町東4-2-11
石川支店 金沢市法光寺町207-4
広島支店 広島市安佐南区相田6-1-7

TEL03-3836-2011 FAX03-3837-8450
TEL03-3678-7471 FAX03-3678-7472
TEL03-3836-2017 FAX03-3835-7380
TEL042-584-7508 FAX042-584-7581
TEL072-229-2873 FAX072-229-2874
TEL076-257-2535 FAX076-257-2570
TEL082-872-1727 FAX082-872-1728